



2014～2015年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2014～2015年度
国際ロータリー・テーマ
ロータリーに輝きを
Light Up Rotary

国際ロータリー会長
ゲイリー C.K. ホアン

国際ロータリー-2720地区 中津平成ロータリークラブ

会長 梶原 清二 幹事 川崎 潤 会報担当 中島 宏一郎 クラブ広報委員長 中島 宏一郎

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111

事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

e-mail office@n-heisei.org

<http://www.n-heisei.org/>

第1202回例会 平成27年3月5日(木)

- 本日の例会プログラム ゲスト卓話「社会起業家を目指して」
(株)プロメンテ九州 社長 湯口和雄氏
グランプラザ中津ホテル
- 次回例会プログラム ゲスト卓話「おおいた子ども支援ネットとは…」
NPOおおいた子ども支援ネット 理事長 西畑修司氏
グランプラザ中津ホテル



前回(1201回例会)の記録

平成27年2月26日(木)

■ゲスト

中津市教育委員会
高崎章子係長

■ビジター

諫山宏義会員(中津中央)
安田雅豊会員(中津中央)

■出席報告

会員数	25名
免除者数	2名
対象者数	23名
本日出席者	17名
欠席者数	6名
出席率	73.91%

■1200回出席報告の修正

1200回欠席者	7名
メイクアップ	1名
欠席者	6名
修正出席率	69.57% → 73.91%

●メイクアップ

二反田会員(Eクラブ2/13)

●欠席者

川崎会員・長野(修)会員・長野(定)会員・初倉会員
矢頭会員・渡邊会員

◎ロータリーソング 我らの生業

◎会長の時間 梶原会長

今年はいつまでも寒いですね。

そこで春一番(はるいちばん)というのを調べてみました。

ブリタニカ国際大百科事典によりますと

その年の立春から春分までの間に最初に吹く強い南よりの風のこと。

通常は日本海で低気圧が発達することによって生じる風であるため、海難事故、融雪洪水、なだれ、日本海側の地方ではフェーン現象で大火などを引き起こすことがあります。

気象庁によると、1859年(安政6年)3月中旬、現在の



長崎県壱岐の島沖で強い南風にあおられ漁船が転覆、漁師53人が犠牲になり、それ以降、漁師らがこの強い南風のことを「春一」「春二」と呼び警戒する慣習が生まれました。これが「春一番」の由来だといいます。気象庁は1950年から観測、毎年発表するようになっています。

◎幹事報告 川崎潤幹事

●例会変更 別府RC、別府北RC、別府東RC、別府中央RC、豊後高田RC、日出RC、宇佐RC、湯布院RC

●週報受理 中津RC 杵築RC 津久見RC

●幹事報告

・大分第一G 合同ゴルフコンペのご案内

・2015～2016年度会長エレクト研修セミナー開催のご案内





2014~2015年度

中津平成週報 Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2014~2015年度
国際ロータリー・テーマ
ロータリーに輝きを
Light Up Rotary

◎本日のメニュー



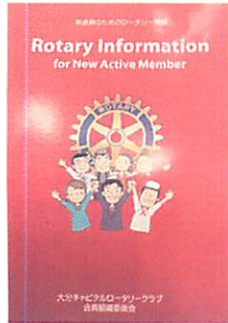
◎その他報告事項

中津中央ロータリークラブ諫山会長、安田会員より4月5日(日)に開催される尾木直樹氏の講演会のお知らせをいただきました。



◎委員会報告 岡野会員

先日、2720地区の会議に出席しましたので、その中での大分キャピタルクラブさんの資料を回覧します。



◎ニコニコボックス 担当：会員増強退会防止委員会

〔梶原会長〕 諫山会長、安田さん、本日はようこそおいでくださいました。高崎係長、本日は卓話をよろしくお願いします。

〔川崎幹事〕 先ほど紹介いただきました中津中央ロータリークラブさんの講演会のチケットを販売しますのでご協力よろしくお願いします。

〔水田事務局員〕 先週はお休みして申し訳ありませんでした。

〔黒瀬会員〕 先日開催されました、NHKのど自慢の予選では、残念ながら落選してしまいました。私と一番違いの方の番号が呼ばれた時には大変落ち込みました。

◎ゲスト卓話

「中津城石垣について」

中津市教育委員会文化財課
高崎章子係長

本日は、中津市教育委員会文化財課の高崎章子係長にお越しいただき、「中津城の石垣について」の卓話をいただきました。

中津城は、昨年大河ドラマにもなりました黒田官兵衛公の居城として有名ですが、実は黒田官兵衛公が初めて築いた城が中津城であるとのことでした。

黒田官兵衛公が九州に入った当初の九州の城郭は防衛のみに注力した山城が主でしたが、中津城は海と川に背を守られ市街を取り込んだ城下町を形成した水城で、当時の最新の近世城郭として歴史的な価値も高いとのことでした。



中津城の堀の堀削にあたり、九州最古の近世城郭と言う歴史的な価値もあり、その工事にあたり様々な苦勞を重ねられたとのことでした。

石垣を解体するにあたり、構成している石は全て自然石を使用しているのですが、全ての石が必ず地面に接地しているとのことでした。それが地震などの揺れにも強い構造になっているとのことでした。その石のひとつひとつに番号を振り、組み直す時はその都度水平を取りながら何度もやり直ししながら組み直されたそうです。

将来的には、中津城の石垣を全て復元して石垣の周遊なども考えていきたいとのことでした。ぜひ中津城の川沿いを歩いて、官兵衛公の築城技術に触れていただきたいとのことでした。